

前代未聞の大犯罪：イラク

【訳者注】これは、4/1 掲載の「イラクのホロコースト：270 万人が暴力死または戦争による喪失死」を増補するもので、驚くべき事実が明らかにされている。イラクでは、主として子供に対する「定義通りの」ジェノサイドが、意図的に行われた。我々はほとんどこういう事実を知らなかった。というより知ろうとしなかった。英米の側に立つことが、無条件に正義の側に立つことだと思っていた。そのことによって彼らの犯罪の加担をしたことになる。9・11についても同様、真相を知ろうともしないことによって、我々は犯罪者の一味になっている。

By Ian Sinclair

May 29, 2015

彼らは知っていたに違いない。どうして知らないことがあるのか。おそらく知らないことにしたのだろう。ナチスの経営する死の収容所の、解放 70 周年を世界が記念したとき、普通のドイツ人が、彼らの政府の犯していたジェノサイドについて、どれくらい知っていたのかという問題が、再びニュースになった。

もちろん、ベルゼンや他の収容所の解放について考えるとき、背後にあるのは、現在のイギリスで、我々は事実をすべて知らされて生活していて、幸いにも、恐ろしい犯罪の起こっていない社会に生きているという前提である。だから、万一そういうことが起れば、それは、我々の自由で厳しいメディアによって直ちに報道され、直ちに中止されるであろう。

しかし、もし我々自身の政府が、ジェノサイド級の苦しみを作り出す張本人で、メディアは警鐘を鳴らすこともなく、したがって一般大衆は無知の状態におかれていたとしたらどうだろう？

これは我々の政治家たちについて何を語るか？ メディアについて何を語るか？ そして我々について何を語るか？

不幸なことに、これは仮説の議論ではなく、冷酷で残忍な現実なのである。

この悲痛な事実を理解するためには、我々は、アメリカに率いられた連合軍が、1990 年 8

月にイラクが不法に侵略したクウェートから、イラクを追い出した 1991 年 2 月に戻らなくてはならない。

カナダの医師で、ハーバード研究チームを率いている John Hoskins によれば、アメリカの先導する空軍攻撃は、「イラクの、人間が生きるのに不可欠のすべてのものを、効果的に破壊してしまった——電気、水、下水溝、農業、工業、医療手段などすべて。」サダム・フセイン政府に、“大量破壊兵器”（WMD）を捨てさせるという名目で、国連はイラクに経済制裁を課し、それは 2003 年の侵略まで続いた。制裁体制はアメリカと、これに同意して最も過酷な方針を取ったイギリスによって強制実施された。

「国連によって、これ以上に徹底した経済制裁を課せられた国は、イラク以外には存在しない」と、国連のイラクへの前人道問題調停官 Hans von Sponeck は、2006 年の著書 *A Different Kind of War* で述べている。

「1980 年代には、公衆の健康への危険とはもはや考えられなくなっていた、天然痘、ポリオ、コレラ、チフス、消耗症、それに kwashiorkor などの伝染病が、再び、流行病の規模で現れた。」

1999 年、国連児童基金（ユニセフ）は、50 万以上の 5 歳以下のイラクの子供が、医療、食料、また安全な水の不足のために、死んだと推計した。

制裁の最悪の効果を幾分か是正するために、1996 年、国連は、石油を売って食料、医薬品、その他に交換することを許可する「オイル・フォア・フード計画」を実施した。

しかしこのプログラムは十分というには程遠かった。「徹底した経済制裁の行われた数年間の、どの時期においても、「オイル・フォア・フード計画」の前も、その間も、人間の肉体的・精神的生存のために必要最小限の物資さえあったことはない」と、フォン・スポネックは著書の中で述べている。

1998/99 年に、イラク人の一人ひとりが、49 ドルの食糧配給——1 日につき 27 セント——を 6 か月間受けた。これと対照的に、イラクから地雷を除くために国連が使った犬は、一匹当たり 160 ドルの食糧を割り当てられていた。

制裁体制を取り続けていた、イラクへの国連人道問題調停官 Denis Halliday は、米議会 70 人グループが「政策の仮面をかぶった子供殺し」と呼んだものに抗議して、1998 年に職を辞した。制裁が、1 か月 5000 人におよぶ子供の死の原因になっていたことについて、ハリ

デイは悪びれもせずこう言った——「我々は一つの社会全体を滅ぼしているのです。それくらい単純で恐ろしい話です。それは不法で不道德なことです。」

ジャーナリストの **John Pilger** の質問に答えて、ハリデイは後にこう説明した——「私は、ジェノサイドの定義を満たすような政策を実行するように、教示されました——それは、百万をはるかに超える、子供、成人を含めた人間を、効果的に殺した意図的な政策でした。」

ハリデイの後継者フォン・スポネックは、これに抗議して 2 年後に辞任し、その辞表の中でこう問うている——「イラクの一般市民たちは、自分がやったのでないことに対し、いつまで、そのような罰を受けねばならないのか？」彼は後に、ピルジャーに話している——「私はこれまでは“ジェノサイド”という言葉を使いたくなかったのですが、今、それは避けられません。」

ハットトリックのように、「イラク国連世界食糧計画」の責任者 **Jutta Burghardt** が、フォン・スポネックに続いて 2 日後に辞任し、この制裁体制を「真の人道的悲劇」だと説明した。ピルジャー、**Tony Benn**、**George Galloway** など少数を除いて、イギリスの政界やメディアは、制裁がイラク人を巨大な規模で殺しているという事実を、無視するか退けることにした。

メディアの番犬 **Media Lens** によれば、2003 年、イラクに言及した 12,366 篇のガーディアン、オブザーバー両紙の論文のうち、ハリデイの名をあげたのは 2 篇だけだった。フォン・スポネックは同じ年、総計 5 回、言及された。フォン・スポネックの制裁に関する本は、イギリスの出版界では一度も書評されず、ただ一度、古参の中東専門記者である **Robert Fisk** によって言及された。

Peter Hain とか **Robin Cook** のような、新しい労働党大臣の否定的態度を反響して、2002 年、オブザーバー紙の編集長 **Roger Alton** は、制裁について彼に問い糺す読者に答えて、こう言った——「こうした子供たちを、むごたらしく殺しているのはサダムであって、制裁ではありません、悪いですが。」人望厚い中東スペシャリスト **Fred Halliday** 教授〔国連の **Halliday** とは別〕も、同じように一蹴して、「イラクがいまだに、基本的な食糧を供給する手段をもっていないなどという主張」は馬鹿げていると言った（1999 年、インデペンデント紙の書評）。

支配的なエリートたちが、迎合するメディアや、ほとんどの学界の沈黙に助けられて、画期的で不気味なほどの、魔法のトリックをやったのけた。ある 24 時間ニュース番組の中で、彼らは、イギリスの外交政策の直接の結果として死んだ、何十万というイラク人の死体を、

手際よく埋葬してしまったのだ。

この制裁について、今日まで報道も関心も議論もなかったことは、いかにその試みが成功したかを示すものである。

ハロルド・ピンターが、ノーベル賞スピーチで冷笑的に言ったように、「それは決して起こらなかった。何一つ起こらなかった。それが起こっているときでも、起こらなかった。それは問題でなかった。それには全く興味がなかった。」

陰謀といったものは必要でなかった。「イギリスの文学の検閲について不気味なことは、それがたいていは自発的であることだ。公的に禁止する必要もなく、不人気な考えは黙らされ、不都合な事実は闇に葬られる」と、ジョージ・オーウェルは、彼の検閲された『動物農場』の序で言った。

彼は、民主的社会での思想統制には、2つの理由があると言っている——まず、イギリスの出版界のオーナーたちが、社会的に、政治的に、経済的に、支配エリートの一部であり、「ある種の重要な話題については、正直になれないあらゆる理由をもっている。」第二に、「どんな時にも、正統的思想、つまり、正しく考えるすべての人々が疑問なく受け入れていると思われている、ひとセットの考え方がある。これやあれやを言うのが禁止されているわけではないが、言わない〈ことになっている〉ことがある」と、彼は説明する。

常に同じことだが、国籍や皮膚の色に関係なく人々の命を大切にし、真理を尊重し、世界市民として真剣に責任を負う人々だけが、声をあげて、この道徳的、歴史的な暴挙をやめさせようとする人々である。

(イアン・シンクレアは著書に、*The March That Shook Blair: An Oral History of 15 February 2003*, published by Peace News Press がある。)